

現地発 米国アップル新製品発表イベントレポート

## 極小サイズの新 iPod と待望の iTunes ケータイが登場！

外村 仁

写真：Kaz Shiozawa

「1000曲をポケットの中に」がすべてを変えた。そして再び、何かが始まる」

8月末、こんな思わせぶりなコピーの招待状がアップルから届いた。アップルが9月頭に音楽関係の発表を行うという噂はあったし、CEOのステーブ・ジョブズはこの発表のことが気になって8月の日本行きを躊躇していたらしいという話も聞いていた。

ステーブがそこまで気合いを入れる発表内容とはいったい何か？ いろいろと思いを巡らせながら、9月7日の朝からサンフランシスコのモスコーン・ウェストへ向かった。

MacWorldでおなじみの、モスコーン・センターの隣に新しく建てられたモスコーン・ウェストは、近年WWDC(アップルの開発者会議)も行われるようになっておなじみの場所であるが、今回は招待制イベントのために看板やロゴなど何もなく、外からは何があるのか全く分からない。

登録を済ませて3階に上がると、開始30分前だというのにプレスが群がっており、右側はテレビ/ラジオ、活字メディアは左側というこれまでにない分けられ方

で入場した。

いよいよイベントが始まり、ステーブの姿を現す。世界的なチェリストのヨーヨー・マも客席に居ることを紹介し、コンピュータではなく音楽イベントであることをさりげなく印象付けるステーブ。今や、世界のデジタル音楽マーケットの85%をiTunes Music Store(iTMS)が押さえていると景気のいい話から始まった。2年半前に20万曲でスタートしたiTMSは、現在200万曲を販売するまでに成長し、名実ともに最大のオンライン音楽販売者となったことを誇らしげに語った。

そして初めて公開する数字として、これまで1千万のユーザーカウントが作られたこと、そのアカウントは平均60曲を購入していること、そして「maybe」といいながらも、アマゾンに次いで2番目に大きなオンラインストアだろうと自信を持って宣言した。8月には最後の大国である日本にも進出し、開始4日間で100万ダウンロードという記録を打ち立てたこともステーブの自信を加速させたに違いない。

そして、6月下旬にiTunes 4.9でサポートを開始したばかりのポッドキャスト

ティングに言及。すでにiTunes上に700万のサブスクリプションを記録していること、21か国語の番組があり、iTunes上にはすでに1万5千もの番組が登録されており、週に千のペースで増え続けていることを明らかにした(応募が殺到しており、登録作業が間に合っていないという話も)。また、CBSやCNN、ホワイトハウスや共和党なども始めたことを紹介し、質と量の両面でのポッドキャストの急速な盛り上がり強調した。

そして、最近力を入れているiTMS限定コンテンツの取り組みを2つ発表した。1つはハリーポッターのオーディオブックがiTMSでのみ販売されること(来場者へのお土産も、ハリーポッター1話分のダウンロードカードだった)。また、これまでオンライン販売を固辞してきたマドンナが、今日より全曲をiTMSのみで発売開始すると発表した。すぐにiChat AVでロンドンのマドンナと直接会話、「新しいiPodを買うとすぐまた新しいのが出てがっかりするのよ」「じゃあ、今日もまたがっかりさせてしまうかもね」と軽口の会話で会場を盛り上げつつ、同時に後半の布石に余念が



ROKRをデモするステーブ。以下のウェブサイトでテレビCMを見ることができる。  
<http://www.makemedance.com/>



iTunes 5とともに、ウィンドウズ版のQuickTime 7もリリース。自社のマルチメディア環境を着実に浸透させていくアップル。



iTMSでの提供を決めた理由について「自分の曲が買えないことに我慢できなくなったから」と答えたマドンナ。

ないスティーブ。

次に検索機能や操作性を向上させた iTunes 5 を紹介した。これは、発表と同時に全世界で Mac とウィンドウズ版が同時にリリースされた( 前回の 4.9 では、ウィンドウズ版が遅れたことを考えると、再びアップルは努力しているようだ )。

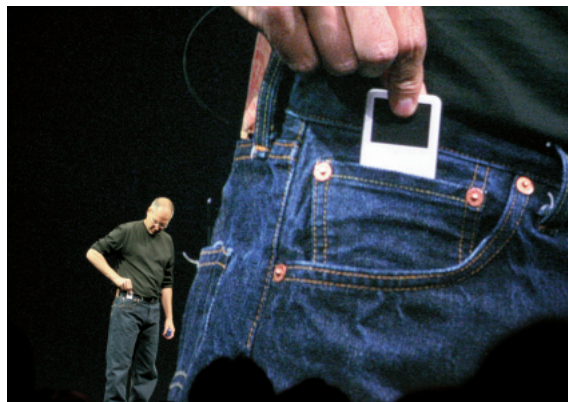
さて、お待ちかねの新製品発表。

最初は、昨年の春に発表されていたものの、なかなか発売されなかった iTunes 対応のケータイ「ROKR( ロッカー )」である。iTunes 4.9 には、携帯電話のアイコンがすでにリソースとして内蔵されていたが、肝心の電話がなかなかモトローラから発表されなかったことを覚えているかもしれない。この日、満を持して発表されたものは、実は製品よりもメッセージ。つまり、「北米最大のオンライン音楽会社」と「北米最大シェアのケータイ端末会社」が共同で作ったケータイを「北米最大シェアのケータイキャリア」の「のみ」が売るという3強メッセージである。キャリアの Cingular は、AT&T Wireless を買収して、先行していた Verizon をわずかに抜いてトップに躍り出たが、さらに他社に差を付けるための戦略商品として、この世界初の iTunes ケータイを独占する道を選んだ。

ハードウェアとしては、ケータイに iPod shuffle を内蔵したものといえ、USB ケーブルを使ってパソコンと接続し、同期をとる。残念ながら一部で噂されたポケット経由での iTunes への接続は実現していない。データ通信はまだ高かつポピュラー



ゲストは、カトリナ災害での大統領の対応を批判し注目を集めるカニエ・ウェスト。iTMS での売れ行きも好調で 2 曲を披露した。



イベント会場で iPod nano が姿を現した瞬間( 左 ) と、アップルが送った招待状( 右 )。ポケットはポケットでもまさか小さい方は.....。



でもない現在の米国では、まだ実現は難しいようだ。また、デザインは昨年ブームを引き起こした同じモトローラの RAZR ( レイザー ) に比べれば、今ひとつ垢抜けないものである。よって、厳しくいえば端末自体もサービスもそんなに革新的なものではなく、あくまでもこの話はマーケティング主導であると考えべきだろう。実際、Cingular のこの電話の広告への力の入れ様は尋常ではなく、また、会場で紹介された TV 広告も非常に出来が良かった。アップルの iPod シルエット広告を想起させながら、電話と iPod が表裏一体のこの端末の性格をうまく表現しているのが分かる。

そして今日の本当の目玉、iPod nano の発表となる。スティーブがジーンズの「コインポケット」から iPod nano を取り出した瞬間、来場者は招待状に隠された意味に初めて気づくことになった。

スティーブがステージ上で nano を手に取って話すとき、まるで「自分の子供のように」語りかけている姿が印象的だった。また、発表会直後のハンズオンコーナーに現れた彼が、愛するように nano を手に取って記者たちに語る姿に、軽く感動を覚えたのは私だけではあるまい。

新しく iPod 対応を発表したホ

ングとオーディオの実車の展示を横目で見ながら、急いで道向かいのソニー・メテリオンに入り、Wi-Fi にアクセスすると同時に、アップルストアオンラインでブラックの nano を即刻注文したのだった。もちろん自分の名前の刻印入りで。

ビデオストリーミングで、9月8日に日本で行われた発表会の様様が視聴できます。

[123 ページへ](#)



イベント終了直後のスティーブ。その表情には nano の船出を大成功に終わらせた喜びがあふれている。

9月13～16日、米国ロサンゼルス市で、マイクロソフトが主催する「Professional Developers Conference 2005(以下PDC)」が開催された。

同イベントは、マイクロソフトの主要プラットフォームの概要などを開発者向けに説明するセッションからなり、たいいていは製品に大きなバージョンアップが行われる場合に開催される。前回の開催は2003年で、ウィンドウズ Vista(コード名「ロングホーン」)の概要が初公開された。

今回も話題の中心はウィンドウズ Vistaだが、それに加えてIE7や次期サーバーとなるロングホーンサーバー(コード名。こちらはまだ正式名称が決まっていない)ウェブサーバーのIIS7などの概要が公開された。また、Googleが積極的に採用している技術 Ajax に対応した開発環境「アトラス」(コード名)も正式公開された。このほか、ようやく Visual Studio 2005 の開発が完了。参加者には、製品候補となる RC 版が配布された。

さらに今回初めて、2006年に出荷予定の Office 12 が公開された。ユーザーインターフェイスなどが全面的に変更となり、従来のメニューやツールバーといったスタイルをやめ、グラフィカルなコンポーネントによる表示や、設定がリアルタイムに本文に反映されていくライブビューなどの機能を備えている。



PDCは、マイクロソフトの製品戦略において特に重要な時だけ開催される不定期のイベント。特に開発者からは高い注目を集める。

IEはRSSとセキュリティーを強化

IE7は、タブブラウジングなど、現在MSNツールバーで拡張される機能などを取り込むほか、セキュリティー機能などが強化される。また、RSSに対応し、ページ内のタグからRSSを検出、IEが持つ更新チェック機能などをつかって、自動チェックなどが可能になる。

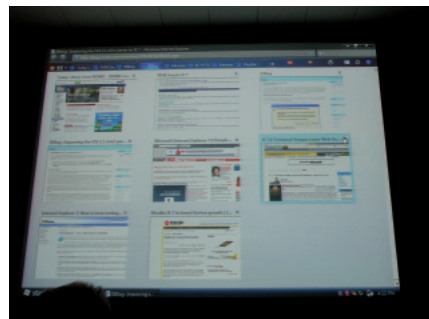
セキュリティー面での強化点は、フィッシングサイト対策である。ページを解析し、フィッシングサイトであれば、警告を表示してタイトルバーの色を変える。また、SSL対応ページの表示などもタイトルバーで行われ、状態がわかりやすくしてある。

Ajaxへの対応も始めたMS

GoogleのGmailや地図サービスなどに使われている技術 Ajax(Asynchronous JavaScript+XML)に対応するのが「アトラス」(コードネーム)である。このアトラスは、ASP.NETの一部として提供され、従来から利用できるASP(Active Server Pages)で、インタラクティブ性の高いページを作ることを可能にするものだ。

MSNメッセンジャーのAPIを公開

現在のMSNメッセンジャー7.0では、話相手とゲームなどを行う機能があるが、こうしたアプリケーションを作るためのAPIが公開された。これを使えば、対戦



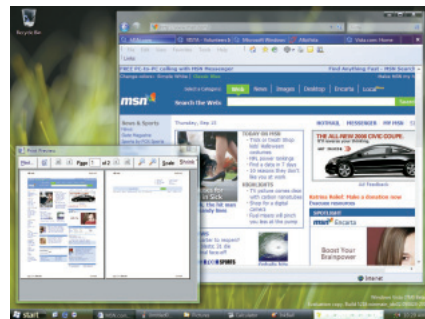
IE7では、タブブラウジングで複数ページを開くことができるが、それをサムネイル表示で一覧することも可能になる。

ゲームだけでなく、同じ情報を共有しながら、チャットするなどということも可能になる。表示されるページ自体は、ウェブページと同じくHTMLをベースにしたものになる。つまり、ウェブページでできるようなことは、すべてMSNのアプリケーションとして実行できることになる。

VistaやOffice 12は、2006年後半の出荷、ロングホーンサーバーは、2007年の出荷とまだまだ先の話だが、今回のPDCには6000人以上の開発者が参加している。実際にVista対応などが行われるのは製品出荷後になるはずだが、今回のバージョンアップは非常に大きなものとなり、デベロッパーにもそれなりの準備が必要となるからだろう。一方で、今年後半から来年前半までは大きな製品がない時期となり、業界としては停滞感が続くことになるだろう。



近年、開発者の注目をGoogleに奪われがちなマイクロソフト。ビル・ゲイツ会長は、ウィンドウズが魅力的なプラットフォームであると説く。



IE7では印刷機能も強化され、印刷時に左右がはみ出さないように自動的に幅を調整する機能を持つ。

TypePadはケータイからの閲覧/投稿に対応、Movable Typeはスパム対策を充実

## シックスアパートが「TypePad」と「Movable Type」をバージョンアップ

シックス・アパートは9月に、ブログASPサービス「TypePad」と、サーバーインストール型ブログツール「Movable Type」のバージョンアップを発表した。

TypePadは今回のアップデートでバージョン1.6となり、9月12日よりTypePad Japan(<http://typepad.jp/>)で利用できるようになっている。

新たなバージョンの特徴は、ブログのデザインとレイアウトの分離、コメントやトラックバックによるスパム対策機能の搭載、ポッドキャストへの対応などがある。またケータイからの閲覧と投稿も、ベータテストという形ながら開始している。ケータイへの対応は、米国などに先駆けて日本でのみの開始となる。

TypePadはニフティの「ココログ」やOCNの「ブログ人」といったブログサービスにもライセンスされており、それらも

順次アップデートしていく予定だという。

「Movable Type」は9月9日よりバージョン3.2日本語版のベータテストを開始した。Ver. 3.2は開発コードネームを「SpamFighter」といい、最近増えてきたブログを対象としたコメントやトラックバックによるスパムの対策を充実させたのが最大の特徴。その他にも、企業ユーザーからの要望が高かった、PostgreSQLとSQLiteへの対応や、テンプレートのTypePadとの共通化、管理画面の日本語表示の改善、インストールの簡略化などが行われている。

また、ケータイへの対応は3.2では実装されておらず、プロダクトマネージャーの柳下氏によれば「現在検討しているところだが、まだ具体的な予定は公表できない」とのことだ。

また、ケータイへの対応は3.2では実装されておらず、プロダクトマネージャーの柳下氏によれば「現在検討しているところだが、まだ具体的な予定は公表できない」とのことだ。

<http://www.sixapart.jp/>



TypePadのケータイ向け管理画面。閲覧/投稿だけでなく、コメントの承認などほとんどの管理が行える。



Movable Typeのインストール画面。これまでは直接CGIファイルにアクセスする必要があった。

## Google、Ask.jpが相次いでブログ検索をスタート テクノラティは世界初のケータイ版ブログ検索で先行

9月14日、大手検索エンジンの米GoogleとAsk.jpは、相次いでブログ検索サービスを開始した。

米Googleは、「Google Blog Search (ベータ版)」を公開し、ブログ検索に対応。英語をはじめとする10か国語に対応しているが、日本語には正式に対応していない。

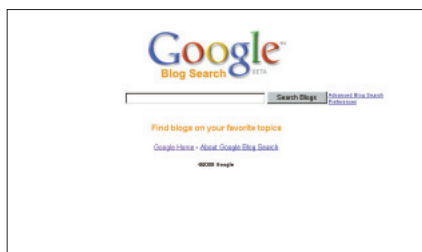
Ask.jpは、トップページのデザインを一新。新たに「最速ブログ」ボタンを追加し、「最速1分でキャッチ」を合言葉に、

即時性をアピールする。また、検索対象をポッドキャストや画像を含むブログに絞り込む機能も持つ。

一方、ブログ検索で先行するテクノラティは、新たにケータイ向けブログ検索のベータ版を公開した。現在は無料で利用できるが、10月下旬から正式サービスへと移行する予定という。

ケータイ版ブログ検索

<http://www.technorati.jp/k/>



相変わらずシンプルなデザイン  
<http://blogsearch.google.com/>

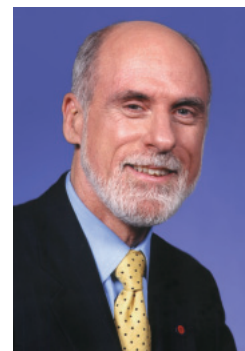


シンプルな宣伝文句のAsk.jp  
<http://ask.jp/>

## インターネットの父、ヴィントン・サーフ氏がGoogleのエバンジェリストに就任

米Googleは9月8日、ICANNのチェアマンであるヴィントン・サーフ氏がチーフインターネットエバンジェリストに就任したと発表した。サーフ氏は、TCP/IPプロトコルを開発したことから「インターネットの父」とも呼ばれている。

Googleでは、次世代インターネットアプリケーションのために、ネットワークインフラストラクチャー、アーキテクチャー、システム、標準規格などの開発を助ける。



Googleのエバンジェリストに就任したヴィントン・サーフ氏。

## 放送・通信融合の実現が間近に!

### TBSがイー・モバイルに100億円の出資

8月31日、イー・モバイルは、東京放送(以下、TBS)を割当先とする総額100億円の第三者割当増資による資本提携を行うことを発表した。これにより両者は、放送と通信の統合サービスの実現に向けて、強いパートナーシップを結んでいく。

イー・アクセスは総務省に対して1.7GHz帯の周波数割当を申請しているが、イー・モバイルはモバイルブロードバンド事業を運用していく同社の子会社。親会社を割当先とする約300億円の第三者割当増資を8月15日に行い、今回の増資で約400億円規模の会社となるが、資本金1,000億円を今後の目標としていることを千本氏(会長兼CEO)は述べた。

TBSの城所氏(専務取締役)は、今回の第三者割当増資を引き受けた理由を、「現在の通信と融合は大きな変化」携帯電話としてスタートしたモバイルは、将来

有力な個人向け携帯情報端末となると考えられ、そこに映像コンテンツを提供するだけでなく、データの情報提供の面からも関わっていきたい」と説明した。

1.7GHz帯の免許の交付について「2005年度中にあるだろう」(千本氏)としながら、2006年度中にデータ通信サービスを開始しエリアの拡大を進めた後、音声通信サービスを展開する予定。TBSとの統合サービスは早期に実現する予定。



左からイー・アクセスの種野 晴夫氏(社長兼COO)と千本 倅生氏(会長兼CEO)、TBSの城所 賢一郎氏(専務取締役)と原田 俊明氏(執行役員メディア推進局長)

## インデックス、ナムコから日活の株式を取得。子会社化で基本合意

モバイルやメディア事業を展開するインデックスは9月7日、ナムコが保有する日活の株式を取得することで基本合意に達したと発表した。

この合意により、インデックスはナムコから保有する株式の過半数を9月中に取得して日活を子会社化するが、ナムコも引き続き数%程度を保有する予定だ。

今後の具体的な展開としては、日活の持つ映像資産の、ビデオオンデマンド事業を行っている子会社ネオインデックスへの提供、新進気鋭の監督を起用して作品の企画を順調に進められるような映画製作ファンドの推進、メディアミックスによる多角的な映像資産を活用したヒットコンテンツの創出などを計画。また、インデックスグループの海外網を使ってアジア、北米、ヨーロッパへ日活作品を配給することなども視野に入れている。

## イーベイがスカイプを約26億ドルで買収 今後の業績達成でプラス約15億ドル

米イーベイは9月12日、ルクセンブルグのスカイプテクノロジーを買収することで合意したと発表した。

買収金額は、約26億ドル(約2,860億円)。約13億ドルが現金で、残額はイーベイの株式3,240万株で支払われる。さらに、もしスカイプが今後の業績目標を達成した場合は、最大約15億ドルが報酬として上乗せされるとのこと。買収は2005年第4四半期までに完了する見込みだ。

イーベイのCEOであるメグ・ホイットマン氏は、「eコマースをリードするイーベイに、インターネット音声コミュニケーションのリーダーを加えることで、ネット上のビジネスで非常に強力な環境を整えられる」とコメント。同社では、イーベイにおける支払いや配送といった重要なプロセスに、スカイプによる音声コミュニケーションを導入する予定だ。

## ACCESS、「Palm OS」をライセンス供給している米パームソースを買収

ACCESSは9月9日、同社の米国子会社が、PDA向け「Palm OS」をライセンス供給している米パームソースを吸収合併すると発表した。パームソースは、実質的にACCESSの完全子会社となる。

発表によると、パームソースは今年1月のチャイナモバイルソフトの買収を通じてLinuxテクノロジーを獲得し、現在LinuxベースのPalm OSの開発を進めている。

今回の合併によって、ACCESSはパームソースが保有するPalm OSに加えて、ユーザーインターフェイス、アプリケーション、Palm OSの開発者コミュニティなどを獲得することになる。

同社は、従来のソフトウェア基盤に加えて、これらのリソースを活用することで、トータルなTurn Keyソリューションを提供できるようになり、携帯端末メーカーのコスト削減が可能になるとしている。

## 米オラクル、米シーベルを買収 世界最大のCRMベンダーへ

9月12日、データベース分野の最大手である米オラクルは、CRM大手の米シーベルシステムズを買収することで合意したと発表した。

買収総額は約58億5000万ドルで、これによってオラクルは世界最大のCRMベンダーになるという。株主の承認を待って、2006年初めに完了する見込み。シーベルはCRMアプリケーションの専門ベンダーで、北米地区で最多のシェアを誇る。

今年に入ってから、米ピープルソフト、米リテックなどの買収を立て続けに行ってきたオラクルだが、その動きをさらに推し進めて最大手のSAPなどに対抗する構えだ。

一方で、CRM分野では、米セールスフォースなどASP型のサービスが急成長しており、これに対するオラクルの戦略も注目される。

情報社会の倫理と設計についての学際的研究を行う ised@GLOCOM が開催

## “なめらかな会社”を目指す近藤氏、ネット上の公と私の衝突を懸念する高木氏

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター( GLOCOM )が主催する「情報社会の合意形成」をテーマにしたシンポジウムが8月20～21日に横浜で開催された。このフォーラムのセッションの1つとして哲学者・批評家の東浩紀氏( 国際大学 GLOCOM 教授 )が主催する「ised@GLOCOM : 情報社会の倫理と設計についての学際的研究」の公開討議が行われた。ised@GLOCOM は、2004年10月に「情報社会論の新しいパラダイムを学際的に探る」ことを目的として開始した研究会で、毎月1回程度のペースで主にネット上の倫理問題を扱う「倫理研」と、その倫理をネット上でどのように技術的設計に取り入れるかを議論する「設計研」の2つのグループに分かれて開催されてきた。

研究会は毎回異なる委員による講演の後、その内容を元に委員による共同討議を行うという形式で、これまでには白田秀彰氏( 法政大学社会学部助教授 )、八田真行氏( 東京大学大学院経済学研究科博士課程 )、北田暁大氏( 東京大学大学院情報学環・学際情報学府助教授 )、楠正憲氏( マイクロソフト技術企画室主席研究員 )、加野瀬未友氏( ブログ「ARTIFACT」運営者 )などによる講演が行われてきた。

今回の ised@GLOCOM は、1日のうちで前半は倫理研として高木浩光氏( 産業技術総合研究所グリッド研究センターセキュアプログラミングチーム長 )の講演とそれを元にした共同討議が、後半は設計研として近藤淳也氏( 株式会社はてな代表取締役 )による講義と共同討議が行われ、合計で6時間あまりに及んだ。

倫理研での高木氏の講演は「無断リンク禁止教と儀礼的無関心、不正アクセス禁止法、プライバシーアーキテクチャと匿名性」と題し、ここ数年間のインターネット上で起きたさまざまな事件を元に「私的空間と公的空間をいかにして両立させる

か」ということに主眼をおいてなされた。不正アクセス禁止法違反による逮捕や、無断リンク禁止をうたう個人や公的機関のウェブサイトの問題を皮切りに、技術を持つ者と持たない者、原則を守る人と守らない人の対立が起きて、問題化していることを報告。そして、これらの問題が最終的に「ネットにおける匿名性」に対する誤解から生まれているもので、それを「存在の匿名性」と「表現の匿名性」に区別して議論することで解決が図れるのではないかと、との提言で締めくくられた。

午後からの設計研は「なめらかな会社」というテーマによる近藤氏の講演から始まった。近藤氏が考える「なめらか」は、株式会社はてなで実際に行われている取り組みを元にしたもので、それには「社内の社員と社員」「会社と会社の外」「日本と外国」の3つのレイヤーがあるとした。

実例の1つとして予測市場の仕組みを利用して、はてなのサービスの改善案をユーザーから募る「はてなアイデア」を紹介し、会社とユーザーを対立するものではなく情報を共有することで同じ視点に立ち、それによって結果的にサービスが向上することを示した。

そして、かつては情報を多くの人と共有するには大きなコストがかかり、隠蔽した方が利益につながると考えられたが、ITの普及した今では情報共有のコストが劇的に下がり、逆に情報をできるだけオープンにした方が会社の、しいては社会全体の利益になるのではと考察した。

それぞれの講演の後には合計4時間にも及ぶ共同討議が行われ、そこでも興味深い議論が繰り広げられた。誌面の都合で詳しくは紹介できないが、詳細な議事録が ised@GLOCOM のウェブサイト( 1 )で公開される予定なので、そちらを参照して欲しい。

1 <http://www.glocom.ac.jp/ised/>



ised@GLOCOM のディレクターで、倫理研の司会を担当した東浩紀氏。



産総研の高木浩光氏は、これまでプライバシー問題への啓蒙活動で知られている。



設計研の司会を務めた東京大学大学院総合文化研究科博士課程の鈴木健氏。



株式会社はてな代表取締役の近藤淳也氏は、情報公開のメリットを協調した。

## NTT Com、「パワープラットフォームホスティングサービス」に新たなパッケージ 「セキュリティパック Entry」と「エントリーパック」を提供開始

NTT コミュニケーションズ(NTT Com)は、専用型ホスティングサービス「パワープラットフォームホスティングサービス」において、最近被害が急増している「SQL インジェクション」などの不正アクセスに対する防御機能を標準装備した「セキュリティパック Entry」と、共有型ファイアーウォールを使う「エントリーパック」を8月1日より提供開始した。

両サービスは、新たに導入された専用サーバー「Standard 1.5」の上で提供される。このサービスを利用することで、企業活動に直結するウェブサイトの管理コストを低減し、システム管理者の負担を減らしつつ、セキュリティを強化することができる。

### セキュリティパック Entry

インターネットセキュリティシステムズ

社製のIPS(不正侵入検知・防御機能)付き統合アプライアンス「Proventia M10」を専用ファイアーウォールとして使用。帯域確保型100Mbpsインターネット接続、24時間365日の監視・サポート、SLA(サービス品質保証)を含むパッケージ。月額10万円を切る安価な料金を実現している。

### ・ファイアーウォール機能

トラフィック制御およびアクセス制御を行う。また、他のセキュリティ機能と連携して、様々な脅威に対して最適化された防御を自動的に行う。

### ・IPS 機能

プロトコル分析モジュールにより、110種類以上のプロトコルを解析し、未知の攻撃、ワームの伝播活動などを自動的に検知・防御する。

### ・バーチャルパッチ機能

新しいセキュリティホールが見つかると同時に、仮想的にセキュリティパッチが適用されている状態を作り出し、無防備な重要サーバーを攻撃から防御する。

### ・パッチインフォメーション

OSに関する重要なパッチ情報をリリースと同時に顧客に通知する。

### エントリーパック

セキュリティパック Entry のファイアーウォールを、安価な共有型に変更したパッケージ。必要最小限のスペックからスタートし、ビジネスの成長に合わせ、540種類のオプションサービスから必要な機能を追加・変更することが可能。月額5万円台でサービスを利用することができる。

<http://www.ntt.com/>

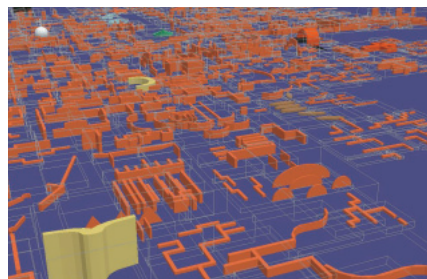
## NICT が松岡正剛氏の「図書街構想」を共同プロジェクトとして開始 北大、慶応、京大なども参画

情報通信研究機構(NICT)は、9月8日に開催した「ユニバーサル・コミュニケーション・シンポジウム」で、編集工学研究所の松岡正剛所長が提唱する図書街構想を5年の共同プロジェクトとして開始すると発表した。

シンポジウムでは慶応の金子教授が司会役を務め、岩波書店の山口社長、北大の田中博士、情報学研究所の高野教授などがプロジェクトへの期待と役割を

話した。

この図書街では数万本の書棚に数百万の電子書籍が収納され、3Dで動的にビジュアライズされる予定。ユニークなのは「街」のメタファーを採用し、場所(トポス)に応じた書籍が配置される点だ。今後この図書街をベースに、新たな検索技術やデータモデルを開発し、次世代の知的編集空間をネット上に構築していく計画とのこと。



図書街全体を俯瞰した表示。この1つひとつが書棚であり、その中に電子書籍が収納される。



パネルディスカッションの様子。左から、松岡所長、田中先生、有村先生、高野先生、金子先生。

## キングソフト、1年間無償で使える中国製 セキュリティ対策ソフトを100万本提供

キングソフトは9月14日、中国で市場占有率第1位の総合セキュリティ対策ソフト「金山毒霸」を日本語化し、「キングソフトインターネットセキュリティ2006」としてダウンロード提供すると発表した。

同ソフトは、「アンチウィルス2006」「パーソナルファイアウォール2006」「アンチスパイ2006」で構成される。

現在、日本のセキュリティ対策ソフト市場は大手数社の寡占状態にあって新規参入は難しいとの認識から、今回の参入にあたっては1年間無償で使える製品を100万本無償配布する。

無償期間終了後の年間利用料も980円と他社に比較して低額に抑えられているのが特長。また100万本ダウンロード到達以降は、無償期間が6カ月、その後の年間利用料が980円の製品が提供される。

<http://www.kingsoft.jp/>

企業の機密情報や個人情報を守る  
 ラックが「データベースセキュリティ対策診断サービス」を開始

不正アクセスや個人情報漏洩事件が増加し、データベースシステムから個人情報や内部機密が漏洩する危険性はますます高まっている中、ラックは、9月1日より、「データベースセキュリティ対策診断サービス」の提供を開始した。

このサービスは、顧客情報や商品情報などの内部情報管理の中核を担うデータベース(以下、DB)周辺に特化して診断・コンサルティングを行うというもの。

通常、企業がセキュリティ対策で実施

する「現状把握」と「対策立案」を、同社が代わって実施し、セキュリティとDBシステム開発の双方のスキルが要求される複雑な環境に対応する。サービス内容は表の3種類だが今回は【1】【2】を提供。

またオプションで、改善提案書に従ったDBセキュリティ対策の実施や、改善実施後の対策状況を測定するための再診断など、対策後のサポートも行っている。なお、対象となるDBは、当面はOracle製のみ。

サービスの種類と診断内容

[金額は税抜価格]

サービス種類	【1】DBセキュリティ対策診断	【2】DBセキュリティ対策簡易診断	【3】DBセキュリティ対策スピード診断(サービス検討中)
診断分野	費用: 400万円 - 期間: 1か月 -	費用: 200万円 - 期間: 2週間 -	費用: 80万円 - 期間: 1週間 -
DB設置状況			
DB基本設定			
ウイルス/ワーム			
アクセス経路			
各種アカウント管理/認証			
アカウントのパスワード管理			
アプリケーション			
アクセス制御			
暗号化			
パフォーマンス			
DB監査			
ポリシー/体制			

PostPetが誕生10周年に向けて  
 ウェブメールサービスをスタート

So-netは新たに、So-netメールアドレス所持者向けに、ウェブメールサービス「Webメール de PostPet」を10月上旬より開始する予定。

このサービスは、最新版Flash Playerに対応したウェブブラウザがあれば、学校やオフィスなど、どこでも自分のメール環境が利用できる。

<http://blog.so-net.ne.jp/postpetwm/>



ブラウザ上でもピコピコと元気に動き回るモモ(画像は開発中のもの)

# Event Calendar

これから開催される国内外の主要なIT関連イベントをご紹介します。イベント情報掲載希望の方は、次のメールアドレスまでご連絡ください。  
 im-release@impress.co.jp

期日	名称	場所	URL
10/3-10/5	2005 FTTH EXPO	ラスベガス(米国)	<a href="http://www.ftthconference.com/">http://www.ftthconference.com/</a>
10/4-10/8	CEATEC JAPAN 2005	幕張メッセ	<a href="http://www.ceatec.com/">http://www.ceatec.com/</a>
10/5-10/7	Web 2.0	サンフランシスコ(米国)	<a href="http://www.web2con.com/">http://www.web2con.com/</a>
10/9-10/12	Mobile Business Expo	シカゴ(米国)	<a href="http://www.mobilebusinessexpo.com/">http://www.mobilebusinessexpo.com/</a>
10/14-10/16	DigitalLife	ニューヨーク(米国)	<a href="http://www.digitallife.com/">http://www.digitallife.com/</a>
10/16-10/19	Macromedia MAX 2005	アナハイム(米国)	<a href="http://www.macromedia.com/macromedia/events/max/">http://www.macromedia.com/macromedia/events/max/</a>
10/16-10/21	Gartner Symposium ITXPO	オーランド(米国)	<a href="http://www.gartner.com/2_events/symposium/2005/sym15.jsp">http://www.gartner.com/2_events/symposium/2005/sym15.jsp</a>
10/17-10/18	Black Hat Briefings Japan 2005	京王プラザホテル	<a href="http://www.blackhat.com/">http://www.blackhat.com/</a>
10/22-11/6	第39回 東京モーターショー 2005	幕張メッセ	<a href="http://www.tokyo-motorshow.com/">http://www.tokyo-motorshow.com/</a>
10/23-10/27	TELECOM 05	ラスベガス(米国)	<a href="http://www.telecom05.com/conference05/">http://www.telecom05.com/conference05/</a>
10/26-10/27	WPC EXPO 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/">http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/</a>
10/26-10/28	Security Solution 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/">http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/</a>
10/27-10/28	インターネットコンファレンス 2005	東京大学 山上会館	<a href="http://www.internetconference.org/">http://www.internetconference.org/</a>
11/9-11/10	eドキュメント JAPAN 2005	東京流通センター	<a href="http://www.e-document.jp/">http://www.e-document.jp/</a>
11/11-11/12	Portable Media EXPO & Podcasting Conference	オンタリオ(米国)	<a href="http://www.portablemediaexpo.jp/">http://www.portablemediaexpo.jp/</a>
11/15-11/16	HOSTING-PRO 2005/Fall	TIME24(東京青梅)	<a href="http://hosting-pro.jp/">http://hosting-pro.jp/</a>
11/29-11/30	mobidec2005	秋葉原コンベンションホール	<a href="http://www.mcf.to/temp/mobidec2005.pdf">http://www.mcf.to/temp/mobidec2005.pdf</a>
11/30-12/2	2005産学官技術交流フェア	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/eve/">http://www.nikkan.co.jp/eve/</a>
11/30-12/3	2005国際ロボット展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/">http://www.nikkan.co.jp/</a>

上記の情報は変更になる場合があります。応募・参加の際には必ず主催者にお確かめください。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)